

祝！東京オリンピック空手道競技出場！！



2020/2/13



西村 拳先輩が来校されました！！

東京オリンピックから正式種目となった空手道競技。2月13日木曜日に東京オリンピック空手道競技に出場する本校OBの西村 拳選手が来校されました。西村選手は佐藤理事長にオリンピック出場の報告を行い、校長室で挨拶を済ませた後に記念紙を作成。その後は中学高校全校生徒が待つ体育館へ。吹奏楽部の演奏と全校生徒の拍手の中入場されました。限られた貴重な時間の中で西村選手は生徒に「今できることを全て全力でやってください」とメッセージを残し本校を後にしました。生徒達にとって、世界のトップアスリートとの時間はとても貴重な時間となりました。



佐藤和秀理事長に出場報告



体育館にて激励会・西村選手入場



体育館にて激励会・最後は全校生徒と記念撮影



池間健治校長に出場報告・記念色紙作成



恩師・図師監督と記念の一枚



体育館にて激励会・西村選手へ花束贈呈



体育館にて激励会・西村選手から記念色紙贈呈



西村拳選手(本校空手道部OB)関連記事①

宮日スポーツ賞 受賞者インタビュー

13日の第24回宮崎日日新聞スポーツ賞贈呈式で、受賞者のうち、東京五輪空手組手男子75kg級代表に内定した西村拳選手(24)=チャンプ、宮崎第一高出=と、元プロ野球選手で琉球ブルーオーシャンズ投手コーチの寺原隼人さん(36)=宮崎市出身=の公開インタビューがあった。宮崎日日新聞社・河野州昭論説委員長の質問に答え、強さが培われた高校時代の思い出や、指導者として選手育成に向けた意気込みなどを語った。(1、16面に関連記事)

東京五輪空手代表内定 西村 拳選手

第一高時代大きく成長



(東京五輪代表争い、2018年夏から約1年半続き、一生懸命取り組んで勝ち抜いた。国た。

部の規則が厳しく、空手漬けだった宮崎第一高時代(メダルなしに終わった直近3回の国際大会では)思い出がないくらいは「地獄」だったが、自分の技が決まらなくなると、師範一監督の指導でメンタル、技術、体力、すべてが向上した。当時、日本一きつというわかれた練習をこなしたおかげで、いい状態で近大の練習に取組め、日本代表にもなれた。

(中野裕)

新聞掲載

宮崎日日新聞-24面-
(2月4日掲載)

空手 東京五輪内定の西村選手 宮崎第一高で後輩にエール



西村選手(手前中央)と記念写真に納まる生徒たち=宮崎市の宮崎第一中学・高校

東京五輪の男子空手組手75kg級への出場が内定している西村拳選手(24)が13日、母校の宮崎第一高校(宮崎市)を訪れ、中高生約1200人を前に「目標は金メダル」と語った。「空手界のプリンス」と評されるイケメンの先輩の来校に生徒たちはわいた。

西村選手は福岡市出身。元世界王者の父の影響で3歳から空手を始め、強豪の宮崎第一高に入学し、2012年高校総体では団体組手、個人組手ともに優勝。近畿大でも全日本学生選手権の個人・団体で2冠に輝いた。東京五輪での正式競技採用が決まった16年から

新聞掲載

朝日新聞-25面-
(2月4日掲載)

「一生に一度のチャンス」として、本格的に世界を戦っている。西村選手は高校生活や部活動について「中学までは親元で甘えていた。初めての寮生活で社会性が身についた」。「環境が変わって体調を崩し、地獄のようにつらい日もあったが、今の自分があるのは高校3年間

のおかげ」と振り返った。そして後輩たちには「高校生活は、ほんの一瞬。恋愛、スポーツ、どんなことにも一生懸命に取り組んで」とエールを送った。空手道部主将で高校2年の吉川騎士君(17)は「どことん勝ちにこだわる拳先輩を見習いたい」と話した。(菊地洋行)



西村拳選手(本校空手道部OB)関連記事②

6個人4団体たたえる



宮日スポーツ賞を受賞した、前列右から外園華蓮選手(日章学園中、代理出席・金子純也監督)、中村美月選手(都城さくら聴覚支援学校高等部3年)、金川羅彌元主将(日章学園中サッカー部)、村社光廣元主将(都城工高少林寺拳法部)、池下航和選手(国体陸上400mリレー本県選抜・宮崎工高2年)、後列右から西村拳選手(チャンプ)、山口雅博さん(県ラグビー協会理事)、小島忠幸ヘッドコーチ(旭化成陸上部)、寺原隼人コーチ(琉球ブルーオーシャンズ)=13日午後、宮崎市の宮日会館

国内外のスポーツ大会で優れた成績を残したほか、競技発展や振興に寄与した本県ゆかりの個人・団体を表彰する第24回宮崎日日新聞スポーツ賞の贈呈式は13日、宮崎市の宮日会館であった。6個人4団体(うち特別賞1人)の輝かしい活躍をたたえた。(16面に受賞者喜びの声、24面に関連記事)

式典では、受賞者の功績をスライドショーで紹介した後、森耕一郎編集局長が選考経過を報告。町川安久社長が賞状とトロフィー、副賞を手渡し、「これまで歩んできた道は正しい。この道を周囲の支援、理解を得ながら進んでほしい」と激励した。

受賞者を代表し、元日の全日本実業団対抗駅伝で4連覇した旭化成陸上部の小島忠幸ヘッドコーチが「多くの県民にねぎらいの言葉をいただき、スポーツの持つ力、意義を感じた。今後、命も期待に応えることがしたい」と意気込みを述べた。



公開インタビューもあり、受賞者で元プロ野球投手の寺原隼人さん(宮崎市出身)、空手組手男子で東京五輪代表に内定した西村拳選手(チャンプ、宮崎第一高出)が目撃などを語った。

柔道男子の丸山城志郎選手(ミキハウス、宮崎市出身)は国際大会を控え、ゴルフ女子の外園華蓮選手(日章学園中3年)は大会出場のため、いずれも欠席した。

★「プレみや」にも掲載

五輪必ず金メダル

西村選手母校で出場報告

宮崎第一中高

東京五輪の空手組手男子75kg級代表に内定している西村拳選手(24歳)チャンプが13日、高校時代を過ごした宮崎第一中高(池間健治校長)を出場報告のため訪れ、在校生らを前に「ブレスシャに打ち勝ち、必ず金メダルを取る」と意気込みを語った。

西村選手は高校日本一に導いてくれた恩師・国師幸一監督らにあいさつ。その後、体育館でサブライズの激励会があり、生徒ら約千人が花道をつくって出迎え。突然の熱いエールに元気があふれた様子で、「今があるのは、高校時代の厳しい練習のおかげ」と笑顔で感謝を述べた。

全員で校歌を歌い、記念撮影では「1番」を表す人差し指を立て「金メダル」を祈願した。空手部男子主将の吉川騎士さん(17)は「宮崎から応援している。メダルを取って、帰って来てほしい」と活躍に期待を込めた。

(中野裕二)

新聞掲載

宮崎日日新聞-1面・24面-
(2月4日掲載)